

# From the *World Conference*

## 第83回日本循環器学会学術集会

2019年3月29～31日 日本・神奈川

小島 敏弥 東京大学医学部附属病院循環器内科

2019年3月29～31日の3日間、パシフィコ横浜にて第83回日本循環器学会学術集会が開催された(写真1, 2)。日本循環器学会は1935年に設立され、当初は300名であった会員数は現在2万名を超えるわが国最大規模の学会である。1936年の第1回年次総会以後、規模はますます拡大している。第83回のテーマは「循環器病学Renaissance—未来医療への処方箋」とされ、一般演題3,153題、Late Breaking Session 105題、チーム医療セッションではシンポジウム8題、一般演題261題と、非常に多くの応募があった。演題に関する新たな試みとして、ポスター発表のなかから優秀な演題のみを集めたベストポスターセッションが企画され、42題が採択された。

3月29、30日は曇天であったが31日には晴れ間もみられ、年度末ということで多忙なか多くの参加者が来場された。初日午後の開会式では、小室一成会長の挨拶に続いてご臨席の高円宮妃殿下からお言葉があり、

2日目には「心臓を守って健康長寿！」という横浜宣言がなされた(図1)。

2018年12月10日、第197回国会最終日に「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法(脳卒中・循環器病対策基本法)」が可決・成立した。これは、循環器診療・研究が重要な課題として位置づけられていること、官民一丸となって対応すべき大きな課題であることを意味している。そのような背景もあり、今回は循環器診療に携わるメディカルスタッフばかりでなく、国会議員や厚生労働省・文部科学省の行政官、医師会、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の方が参加され、さらには患者会のセッションも設けられた。最寄り駅から会場までの途中にあるクイーンズスクエア横浜において一般市民の方に循環器病や循環器診療を知っていただくためのスペースが設けられ、日本心臓財団、日本臓器移植ネットワーク、日本AED財団、大阪ライ

写真1 会場入口



写真2 国立大ホール

